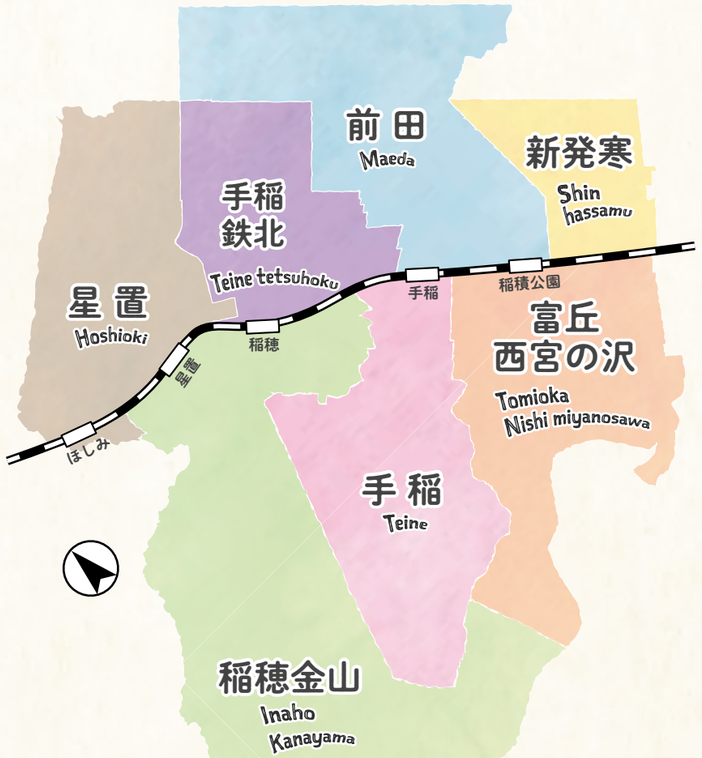
手稲区って どんなところ？

地　理

手稲区は、市の北西部に位置し、西・北・南区、小樽市および石狩市と接しています。面積は56.77㎢で東西に10.9km、南北に9.4kmの広がりを持っており、札幌市の10の行政区の中では6番目の広さを有しています。
手稲区は、市内でも極めて自然に恵まれた地域であり、南西部に位置する手稲山（標高1,023.1m）を源として市街地を流れる軽川（がるがわ）、三樽別川（さんたるべつがわ）、中の川、星置川などの河川には、魚や昆虫、水鳥が数多く生息しています。
手稲区のシンボルである手稲山は、登山やハイキングのほか冬はスキーやスノーボードなど、四季を通じて絶好のスポーツ・レクリエーションの場として市民から親しまれています。北尾根ルート（自然歩道）や山頂からは眼下に広がる札幌の街並みや日本海、さらには遠く増毛（ましけ）連山などの素晴らしい眺望を楽しむことができます。平成26年6月には、その標高にちなんで10月23日を「手稲山の日」と定めました。

あゆみ

手稲は、明治の初期に北海道の交通の要所として開けたまちです。当時、主に小樽港を基点に物資の補給が行われていたので、軽川（がるがわ）（現在の手稲本町）やサンタロペツ（現在の富丘）が、小樽港から札幌への陸上輸送の中継点となり、集落が形成されていきました。
明治の中ごろになると手稲山口に山口県から、星置には広島県からそれぞれ移住者があり、農耕地の開墾を始めました。また、主に泥炭地であった前田や新発寒は、酪農を主とした農場になっていきました。
同じころ、手稲山で金鉱脈が発見され、昭和10年代中ころには産金量が最盛期を迎えましたが、戦後次第に衰退し、昭和46年に閉山しました。
昭和42年、手稲町は札幌市と合併。以後、新興住宅地が次々とでき、昭和47年に札幌市の政令指定都市移行に伴い（旧）西区となりました。平成元年11月6日、人口の著しい増加に伴ってそれまでの西区から分区し、手稲区が誕生しました。当時は約105,000人だった人口が、令和7年1月1日現在では、140,503人（62,664世帯）となっています。



手稲区シンボルマーク

三角形は、やさしく区民を見つめる手稲の山々と、未来に向かって限りなく発展を続ける手稲区を象徴します。曲線は、手稲の歴史を刻む「軽川（がるがわ）」と、人情味あふれる区民相互の協調と連帯のひろがりを表します。色彩は木々の緑、さわやかな水辺、澄みきった青空を表現し、これらの豊かな自然を大切にする区民の心意気を表します。
（平成2年3月制定）

手稲鉄北地区（ていねてつほくちく）

曙地域・前田地域（一部）・明日風（あすかぜ）地域で形成されています。居住区と工業地域が地区のほとんどを占め、温水プール、図書館、体育館などの公共施設のほか、金属加工や機械製作など多数の工場が稼働しています。明日風地域は、平成19年の土地区画整理事業によって誕生した活気あふれる新興住宅地です。

あけぼの夏まつり

てつほくあそびねっと

星置地区（ほしおきちく）

星置地域と山口地域で形成されています。星置地域は、小樽と札幌を結ぶ交通の要所で、昭和60年に国鉄星置駅、平成7年にＪＲほしみ駅が開設され、一気に開発が進みました。山口地域では、地勢を生かし、札幌の特産物として知られる甘みの強いスイカやカボチャを生産しています。地域の歴史を物語る山口運河は、地域のシンボルとなっています。

星まつり

雪の花あかり

前田地区（まえだちく）

旧加賀藩主の前田家が「前田農場」を創立したのが始まりで、昭和17年に地域名称として前田と定められました。石狩手稲線沿いの前田中央商店街や下手稲通の大型店の進出など手稲区の中心地として賑わいを見せながらも、区内最大の広さを誇る前田森林公園や市内最大級の屋外プールを備えた手稲稲積公園など、公園・緑地も多く、春には軽川や旧軽川沿いの美しい桜並木が、地域の人々を楽しませています。

前田まちのお宝活用事業

前田ふれあいまつり

稲穂金山地区（いなほかなやまちく）

稲穂地域と金山地域で形成されています。稲穂地域は、稲の穂がたわわに実ることを夢見て開墾に努めた先祖の苦労をしのび「稲穂」と名付けられました。金山地域は、手稲鉱山の繁栄とともに築かれたまちで、昭和17年に「金山」と名付けられました。両地域とも手稲山の山裾に位置し、現在は自然環境に恵まれた住宅地が広がっています。

金山地域きずなの会

稲穂連合町内会納涼盆踊り大会

手稲地区（ていねちく）

手稲本町とも呼ばれます。明治13年に小樽の手宮と札幌を結ぶ鉄道が開通し、明治14年には軽川（がるがわ）駅（現在のJR手稲駅）ができるなど、古くから交通の要所として栄え、昭和17年まで軽川と呼ばれていました。平成14年5月には、JR手稲駅の新駅舎と、南北の駅前広場を結ぶ自由通路「あいくる」が完成するとともに、駅南側の再開発事業が行われ、駅周辺は一層にぎやかになりました。

ふるさと軽川どじょうまつり

JR手稲駅自由通路あいくる

富丘西宮の沢地区（とみおかにしみやさわちく）

中の川を境に富丘地域と西宮の沢地域で形成されています。富丘地域は、札幌と小樽を往来する役人や旅人たちの休憩所・宿泊所として栄え、西宮の沢を含む宮の沢地域は、札幌市と手稲町との合併を機に開発が進み、平成元年の分区にともない西区側は「宮の沢」、手稲区側は「西宮の沢」となりました。現在は両地域の北側にJR函館本線、中央に2本の幹線が走り、交通の利便性の良さと豊かな自然環境を併せ持つ住宅地となっています。

中の川桜づつみを歩こう会

不法投棄撲滅啓発パレード

新発寒地区（しんはっさむちく）

西区からの分区前は「発寒」という地名でした。
地区内には２つの川が流れており、中の川では四季折々の表情を見せる手稲山を仰ぎながら桜づつみを楽しむことができ、旧中の川では鴨の親子が戯れ、とんぎょ（ニホンイトヨなど）が生息する姿を見られるなど、自然豊かな住宅地として発展しています。

雪に親しむつどい

新発寒地区綱引き大会